

効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築に関する研究

研究分担者 高口浩一 香川県立中央病院 院長補佐

研究要旨 肝炎ウイルス陽性者を、専門医に紹介する肝炎受診勧奨機能システムを、当院の電子カルテを用いて開発し、導入前後の肝臓内科への紹介率を検討した。受診勧奨を行う前の、HCV抗体陽性率は5.1%であり、肝臓内科紹介率は30%あった。肝炎受診勧奨機能を追加したのちの肝臓内科紹介率は30%とかわりなく患者バーへの表示だけでは紹介率は上昇せずワーニング機能を追加して検討中である。

A. 研究目的

肝炎連絡拠点病院内で非専門医が測定した肝炎ウイルス陽性者を、専門医に紹介するシステムを、電子カルテを用いて開発し、全国の病院で使用可能にし肝炎ウイルス陽性者をできるだけ治療の場にあげることが目的とする

B. 研究方法

肝炎連絡拠点病院である香川県立中央病院で非専門医が測定した肝炎ウイルス陽性者を、専門医に紹介する肝炎受診勧奨機能システムを、当院の電子カルテであるEGMAIN-GXを用いて開発し、導入前後の肝臓内科への紹介率を検討しその効果について検討する。開発したシステムを同じメーカーのnon-Customizeの電子カルテを使用している全国の400以上の病院でバージョンアップ機能に追加し早期に安価に利用可能にすることを目指している。

C. 研究結果

電子カルテシステムでウイルス肝炎陽性者の受診勧奨を行う前の、HCV抗体陽性率は5.1%であり、肝臓内科紹介率は30%あった。肝炎受診勧奨機能を追加した肝臓内科紹介率は30%とかわりなく患者バーへの表示だけでは受診率は上昇しなかった。

D. 考察

肝炎ウイルス検査陽性者の受診勧奨機能をシステム化したが生患者バーへの受診勧奨マークだけでは、肝臓内科受診率は上昇しなかったため今後チェック画面機能で目に見える形でカルテ終了時にワーニングを表示し受診勧奨を施行し検証中である。

E. 結論

肝炎患者受診勧奨機能を説明するとともに、ウイルス肝炎陽性者が多く、肝臓内科紹介率が低い診療科に重点的に紹介を推奨することが、肝炎患者さんの拾い上げに有用であることが示唆された。またワーニング効果をみて今後のシステムを構築していく予定である。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表
第40回肝臓病学会 西部会
ワークショップ5-1-4
電子カルテシステムでの肝炎ウイルス陽性者受診勧告前後における当院におけるウイルス性肝炎陽性患者の肝臓内科紹介率の検討

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし

